

国語 第5学年 方言と共通語

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の10月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

共通語と方言の違いを知り、相手や場面に合わせて伝え方を考える。方言を誤りとして直す授業にしない。単元の終わりに残すのは、説明したい方言、確かめた地域と意味、初めて聞く相手への言い換えや補足。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)ウ	ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕A 話すこと・聞くこと(1)オ	オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

単元の目標

共通語と方言との違いを理解し、言葉が地域や世代によって異なることに気付くことができる。相手の立場や意図を確かめながら話し合い、場面に合う伝え方について考えを広げることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通語と方言との違いを理解し、言葉が地域や世代によって異なることに気付いている。〔〔知識及び技能〕(3)ウ〕	①「話すこと・聞くこと」において、相手の立場や意図を確かめながら話し合い、場面に合う伝え方について考えを広げている。（A(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（知・技②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○方言と共通語の例を確かめる。同じ言葉の使う地域と意味を調べる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○相手に応じる説明を考える。言葉を尊重する伝え方を話し合う。	思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：相手の立場や意図を確かめながら話し合い、場面に合う伝え方について考えを広げることができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「初めてその言葉を聞く人に伝えるなら、どんな説明を加えますか」 【めあて】共通語と方言の違いを知り、相手や場面に合わせて伝え方を考える。 〈予想される児童の反応〉 ・いつも使う言葉でも、ほかの地域では意味が違うことがある。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「初めてその言葉を聞く人に伝えるなら、どんな説明を加えますか」 相手に応じる説明を考える。言葉を尊重する伝え方を話し合う。 説明したい方言、確かめた地域と意味、初めて聞く相手への言い換えや補足。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・いつも使う言葉でも、ほかの地域では意味が違うことがある。 ・方言のよさを残したまま意味を説明したい。 ・だれに話すかで使う言葉を考えたい。	教師が公的な方言辞典等で意味を確かめた語を提示する。同じ語でも地域や世代で用法が違う場合は注記し、本人の家庭や出身地の発表を必須にしない。 想定するつまずき：共通語だけが正しく方言は直すべき言葉だと考える、家族の話し方をからかう。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手の立場や意図を確かめながら話し合い、場面に合う伝え方について考えを広げている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・だれに話すかで使う言葉を考えたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。 書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「初めてその言葉を聞く人に伝えるなら、どんな説明を加えますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結

ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

つまづきとして、共通語だけが正しく方言は直すべき言葉だと考える、家族の話し方をからかう。この場合は、教師が公的な方言辞典等で意味を確かめた語を提示する。同じ語でも地域や世代で用法が違う場合は注記し、本人の家庭や出身地の発表を必須にしない。おおむね満足できる状況は、相手の立場や意図を確かめながら話し合い、場面に合う伝え方について考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

説明したい方言、確かめた地域と意味、初めて聞く相手への言い換えや補足。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」143行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

